

事務総局長より新年のご挨拶

「デジタルトランスフォーメーションの恩恵をすべての人へ」



ITU 事務総局長

Houlin Zhao

日本の親愛なるITUの友人の皆様へ
昨年、継続する新型コロナウイルスの世界的流行への対応から、ますます壊滅的になる気候変動への対処まで、困難に満ちた年でした。

情報通信技術（ICT）は強力な利益の源となってきており、2021年には実に49億人もの人々がインターネットを使用するほどになっています。ICTは私たちの生活と社会を大きく変えてきましたが、一方でオフラインのままに取り残されている人々を決して忘れてはなりません。

国連事務総長より、2030年までに手頃な価格のユニバーサル接続を世界中で実現するという提言がありました。これは、特にサービスの行き届いていない地域でのデジタルインフラストラクチャへの投資という点で、ICT開発のための新しい戦略が必要になるような、大きな挑戦です。

インフラストラクチャへの投資は、私の考えるICTの発展戦略の4つの柱、インフラストラクチャ（社会基盤）、インベストメント（投資）、イノベーション（革新）、インクルーシブネス（包括性）の中心となるものです。私は、コロナ危機の当初から世界のリーダー達との話し合いの場で、この「4つのI」の重要性を述べてきました。このビジョンをすすめるために、日本のITUパートナーの皆様のご協力を得られるものと信じています。

接続の不十分な国で、パンデミックとその余波への対策としてConnect2Recoverなどのイニシアチブを通じ、手頃で信頼性の高い接続を拡大する取組みにおいて、ITUを支援してくださった日本政府を称賛します。データ、レジリエンス、政策に関するこのイニシアチブの基礎を築く作業は、2030年までにすべての学校でインターネットを提供しようというITU-UNICEFの共同グローバルイニシアチブGIGAのような、他の画期的なイニシアチブもサポートします。

これらのイニシアチブは、ICTの力とAIから5Gに至るまでの新テクノロジーを活用して、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の進展を加速させ、人類の最も差し迫った課題に取り組んでいるのです。日本は従来よりICTイノベーションを世界へ送り出し、ITUの活動の重要分野のリーダーとして、この取組みにおいて重要な役割を果たしています。

日本の通信事業者が2021年の年頭から5G展開を加速させてきたのは素晴らしいことです。ITUは、無線電波スペクトルの管理を行い、2021年2月に発行したIMT-2020の地上系無線インタフェースの詳細な仕様など、世界で適用可能な国際移動通信（IMT）の標準を定めることによって、5Gモバイルネットワークの進展に中心的な役割を担ってきました。

2022年はITUとICTの世界にとって、世界電気通信標準化総会、世界電気通信開発会議及びITU全権委員会議2022が同年内に開催される、大切な年になります。日本はこれらの会議に積極的に参加し、デジタルトランスフォーメーションの恩恵をすべての人にもたらしてくれると信じています。

私は日本政府のICTの発展における役割とITUへの重要な財政支援、そして多くの日本企業セクターメンバーや学会員がITUに貴重な技術的専門知識を提供してくれていることに感謝します。

2021年度は日本ITU協会の50周年ですが、ITUは貴協会からずっと受けてきたご支援に感謝し、このパートナーシップがさらに50年続くことを楽しみにしています。

皆様のご健康と平和を祈りつつ、新年のお祝いを申し上げます。